

## 「山本五十六戦死とアツ島玉碎」メモ

### ●衝撃的だった山本五十六の戦死

昭和18年4月18日

#### 大本営発表(5月21日午後3時)

「連合艦隊司令長官海軍大将山本五十六は本年四月前線に於て全般作戦指導中敵と交戦飛行機上にて壮烈なる戦死を遂げたり。後任には海軍大将古賀峯一親補せられ既に連合艦隊の指揮を執りつつあり」



〈ラバウル基地での山本〉

▽阿川弘之

「山本五十六」

(昭和41年新潮社)

「新版」(44年)

▽国民は

ミッドウェー

海戦(17年6月5日)

の大敗も



「転進」と発表されたガダルカナル撤退(18年2月9日)  
の「餓島の悲劇」も知らない

▽日本中は まだまだ勝利の余韻にひたっていた

#### 東宝映画「ハワイ・マレー沖海戦」

山本嘉次郎監督のこの映画は、昭和17年12月3日から全国で封切られた。わずか8日で115万円の興行成績を記録し、観客動員1億人という空前のヒット作になった。

東宝が海軍報道部の依頼で、77万円の巨費を投じ、半年がかりで製作した戦争映画。中でも話題になったのは特殊撮影場面を担当した円谷英二(つぶや・えいじ)の特影技術。真珠湾、戦艦、飛行機などの精巧な模型をつくり、それを動くクレーンから撮影して、本物と見まごうほどの臨場感で多くの観客を沸かせた。

▽「無敵連合艦隊」の象徴 国民的な英雄だった山本  
戦死は 衝撃波となって列島を駆け巡った

### 山本 五十六(やまと・いそろく)

明治17(1884)～昭和18(1943)新潟県生まれ。長岡藩士高野貞吉の六男、56歳の時の子。明治34年海兵入学。38年日進に乗組み中、砲塔爆発事故で左手指2本を失う。大正5年に山本と改姓。8年米国駐在となり、ハーバード大学に学ぶ。13年霞ヶ浦航空隊副長兼教頭、14年米国大使館付武官。昭和3年空母赤城艦長。4年ロンドン軍縮会議次席随員となり、5年海軍航空本部技術部長。第1航空戦隊司令官を経て第2次ロンドン軍縮会議(9年)予備交渉日本代表。10年航空本部長。11年海軍次官となり日独伊三国同盟に一貫して反対し、14年8月連合艦隊司令長官。15年11月海軍大将。開戦劈頭のハワイ真珠湾攻撃を立案、実行した。前線基地を視察中、ソロモン諸島上空で米軍機に待ち伏せされ戦死。死後元帥

### 古賀 峰一(こが・みねいち)

明治18(1885)～昭和19(1944)佐賀県生まれ。海軍大将。軍令部次長、支那方面艦隊長官、横須賀鎮守府長官を経て、昭和18年山本五十六の後を受けて連合艦隊司令長官。19年3月、前線で指揮し、パラオからダバオへ移動中に飛行艇が墜落して殉職。死後元帥

#### 「欲しがりません勝つまでは」

昭和17年11月27日、開戦一周年を迎える「国民決意の標語」として発表された入選作10点の一つ。戦争の長期化で物不足は深刻になっていたが、国民に我慢を強いる合言葉となったこの標語は、作者が国民学校5年の少女とあって話題になった。しかし、戦後その父親の代作だとわかった。

### ● 山本戦死に

佐藤春夫(諺人)「ああ、何人か思わん、戦いたけなわなるに、我等が提督の凱旋を、半旗を垂れて迎えんとは」

高村光太郎(諺人、歌家)「其の報まさに霹靂に似たり。満身の血逆流し、筆、字体を成さず。提督身を挺して危うきにつく。我が無敵海軍無上の伝統を忍び、海に生きて海に死し、死して護國の魂魄を海に馳する者、提督最後の決意をおもう」

清沢冽「朝日新聞社前でこれを知り茫然たりだ。これだけ大きなニュースは近頃なかった」

### ● 政府、海軍首脳部のショックは大きかった

△ 遺骨が 戦艦武藏で東京湾に帰ってくる直前まで

1か月以上も 伏せられた

△ 内大臣木戸幸一は 日記に

「真に痛惜に堪へず。一億国民の驚愕悲嘆思ひやらるゝものあり。返す返すも遺憾なり」

△ 古賀「山本の前に山本なく、山本の後に山本なし」

△ 海兵同期の親友堀悌吉は

「この人去って、再びこの人なし」

— 高木惣吉少将(舞鶴守府録長)はラジオで聞いて —

「これでもう、戦など出来るものではない」と思ったと云う。山本の後、連合艦隊の指揮をとれる人は、山口多聞と小沢治三郎しかいないが、山口はミッドウェーで戦死し、小沢も海軍は「年功序列」の金縛りだから司令長官にはしないだろう。「チャンスが掴めたら、戦争終結に向かって大転換すべきではないかと、心の奥で囁くものがある」と手記に書いているが、高木がやがて米内光政海軍大臣、井上成美次官の下で終戦工作に動くのは、山本戦死のショックからだった。

### ● 海軍最高指揮官が なぜ最前線で、飛行機上で戦死?

.... 「い号作戦」に始まっていた ....

山本は拡大した戦場 嶙間だらけの防衛線を整理縮小しないことは、決戦を挑むチャンスはないと考えた。戦いや、国防圏を築くため、使

### 清沢 冽(きよさわ・きよし)

明治23(1890)～昭和20(1945)長野県生まれ。朝日新聞、東洋経済新報などを舞台に、自由主義的な外交・政治評論で活躍。著に「暗黒日記」「日本外交史」

### 木戸 幸一(きど・こういち)

明治22(1889)～昭和52(1977)東京生まれ。木戸孝允の孫で侯爵。昭和15年内大臣となり天皇側近の重臣として力を揮う。東条英機を首相に推薦したが、戦争末期には反東条となり、倒閣、和平工作中に尽力。戦後A級戦犯で終身禁固刑になったが、病氣で仮釈放。著に東京裁判資料となった「木戸幸一日記」

### 堀 悌吉(ほり・ていきち)

明治16(1883)～昭和34(1959)大分県生まれ。海軍中将。昭和4年軍務局長。ロンドン軍縮会議(5年)の条約締結に奔走し9年予備役。日本飛行機、浦賀船渠社長

### 山口 多聞(やまぐち・たもん)

明治25(1892)～昭和17(1942)東京生まれ。ミッドウェー海戦で第2航空戦隊司令官、空母飛龍と運命を共に。死後中将

### 小沢 治三郎(おざわ・じさぶろう)

明治19(1886)～昭和41(1966)宮崎県生まれ。海軍中将。南遣、第3艦隊長官を経て、昭和20年5月最後の連合艦隊司長官

### 米内 光政(よない・みつまさ)

明治13(1880)～昭和23(1948)岩手県生まれ。海軍大将。連合艦隊長官を経て昭和12年海相となり15年1月首相。親米英の方針から日独伊三同盟に一貫して反対、陸軍の協力が得られずに7月総辞職。19年現役に復帰し海相に就任。戦争終結と海軍解体に当たった

える全兵力を集中して敵に打撃を与え、進攻を食い止め、戦局建て直しの時間を稼ごうと、空母機動部隊と陸上基地航空部隊一体となっての航空決戦「い号作戦」を実施することになった。

## ● 2人の司令長官のうち、どっちが指揮をとるか？

▽ 3月下旬 339機がラバウル中心に集結

第三艦隊長官 小沢中将の空母艦載機

南東方面艦隊長官草鹿任一(くさか・じんいち) 中将

指揮の陸上機 (艦載機182機 撃擊機81機 攻撃機72機など)

▽ 2人とも 海兵37期の同期生

指揮権の序列は 草鹿21番 小沢45番

▽ 山本は「情の人」だった

小沢は 艦載機の陸上使用に反対していた

それを説き伏せて「い号作戦」を実施する以上

作戦指揮は 航空戦のベテラン小沢に

▽ 宇垣纏参謀長の考え付いた解決策は

山本自ら将旗をラバウルに進め 陣頭指揮

▽ 4月3日 海軍の歴史では初めて 連合艦隊長官が

旗艦武藏(トウカク島停泊)を離れ ラバウルに進出

## ● ラバウル行きに、山本は乗り気でなかった

▽ 前夜 参謀と将棋を指していて 「僕がラバウルに行くことは感心しないことだ。むしろ柱島(瀬戸内海の連合艦隊基地)に行くのなら結構なのだが…」

「高松宮日記」から

(5月11日)「一課長(作戦課)ノ話 山本長官「い号」作戦ニテ「ラボール」ニ出ルコトハ好マレズ。幕僚室ニ来ラレタ時ナド「ラボールニ出ナクテハナラヌカ」トニ、三度云ハレシ由。主将ハ軽々シクシク出力ケルモノデハナイトノ考ヘニテ、愈々ト云フ時ニ陣頭ニ進ムベキダトノコトナリ」

▽ 張り切っていた宇垣参謀長

ソロモン諸島の第一線基地を回り 叱咤激励

「従来、幹部自ら出馬して、全般を鞭撻するの 気概やや欠けたるを憾まざるを得ず」(戦藻録)

▽ これを聞いた山本が「僕も行くからね」

ミッドウェーの責任 「もう生きては還らぬ」

## 井上 成美(いのうえ・しげよし)

明治22(1889)～昭和50(1975)仙台市生まれ。海軍大将。昭和12年軍務局長となり、米内海相、山本次官と日独伊三国同盟に反対。航空本部長、第4艦隊長官。17年海兵校長となり英語教育の継続を貫く。19年8月海軍次官。終戦工作に尽力

### 「軍令承行令」

海軍には「先任者は後任者を指揮する」という、指揮権の継承順序を決めた規定があった。日本海海戦以来、司令長官座乗の旗艦が先頭に立つことが伝統になっており、敵弾が集中、最高指揮官のやられる危険性が高い。

海軍省人事局は、どんな場合でも指揮権委譲がスムーズに行くよう、毎年現役士官全員に1番から順番に番号を打ち「先任順序」を決めていた。

この番号付けは、「計画人事」と呼んでそのまま海軍の幹部養成システムとなつたが、問題は「ハンモック・ナンバー」と呼ばれる海兵卒業成績が、常にその基準となつたこと。100人前後の同期生を、海兵3年間の評価を点数化して点数順に並べ、首席から4、5番までの優等生は特進組として別枠扱い。昇進は同期生より1年早く、ことに首席は「クラス・ヘッド」として、一生涯クラスのトップに置いた。

特進組は「眞面目で職務に精励する勤務優良な者」に限られ、突飛な言動があつたり、いわゆる個性的な人間は決して選ばれなかつたと云う。

## 宇垣 繩(うづき・まとみ)

明治23(1890)～昭和20(1945)岡山県生まれ。海軍中将。軍令部作戦部長を経て昭和16年連合艦隊参謀長。終戦の日、第5航空艦隊長官として11機を率い、米艦隊に特攻攻撃。遺稿に「戦藻録」

## ●武蔵の長官室の机の引き出しから1通の書き置き

### —「昭和十七年九月末述懐 山本五十六誌」—

「征戦以来幾万の忠勇無双の将兵は命をまとに奮戦し 護國の神となりましぬ ああ我何の面目ありて見えぬ大君に 将又 逝きし戦友の父兄に告げむ言葉なし 身は鉄石に非らずとも 堅き心の一徹に敵陣深く切り込みて 日本男子の血を見せむ いざまで しばし 若人ら 死出の名残の一戦を 華々しくも戦ひて やがて あと追ふ われなるぞ」

### …「海軍航空育ての親」…

山本は大正13年、播磨期の霞ヶ浦航空隊副長を皮切りに、空母赤城艦長、第1航空戦隊司令官、航空本部長を歴任し、航空畑を歩んできた。

昭和12年12月9日、樺村寛一・三等飛行兵曹の九六式艦上爆撃機が南昌爆撃で左翼の半分を失いながら上海の基地に無事還ってきた。「片肺飛行」として話題になったが、海軍次官の山本は自分の育てたパイロットの沈着冷静な操縦がよほど嬉しかったのか、次官室の机の後ろにその写真を大きく引き伸ばして貼った。

ヘビー・スマーカーの山本はその日以来、大好きな煙草をぶつりやめ、小型の手帳に飛行機の戦死・殉職者の氏名を府県別に分け、遺族の住所・氏名まで書き留めていった。

ラバウルに来る直前も、古ぼけたその手帳を見ては「もう、どのくらいになつたかな。この手帳も一杯になつて数を数えるのね難しくなつた」。感無量の面持ちで語る山本を参謀たちは見ている。宇垣の前線激励に、是非とも自分が行ってねぎらい、励ましたいと思ったのではないだろうか。

## ▽「高松宮日記」によると

発表する話もあったが 取り止めになった  
「見ルモノガ敢エテ死期ヲ早ク求メタ如ク考ヘ  
ルノヲ警戒シタワケカモ知レヌ」

## ▽17年暮れ トラック島から親しい友人に手紙

原田熊雄に「平時ならば、後がつかえるつかえ  
ると云われるのに、どういうことか、とんと左  
様の噂も聞かない。ついに艦隊第一の勤続古  
物となりたり」

内田信也に「小生も大分敵をやつつけ部下も殺  
し候えば、そろそろ年貢の納め時と存候」

長岡中学時代の親友に「あと百日の間に小生の  
余命は全部すりへらす覚悟」

## ●「い号作戦」は4月7日から始まった

### ▽連合艦隊司令部は 大きな戦果を挙げたと判定

敵機撃墜133機 地上撃破15機以上 巡洋艦  
1隻 駆逐艦2隻撃沈 輸送船撃沈破26隻

実際は誤認が重なり 米軍の損害は

駆逐艦1隻 輸送船4隻 飛行機撃墜も25機

### ▽味方も43機を失い 16日で作戦打ち切り

### ▽大本営に「連合艦隊長官ハ十八日ショートランド 方面視察ノ上、十九日将旗ヲ武蔵ニ復帰ノ予定」

## ●「山本視察予定」の暗号電報が命取りに

### ▽重要な作戦計画は 決して電報では流さない

### ▽ガリ版印刷して 関係箇所に送付

必要なら 参謀が飛んで行って打ち合わせる

ハワイ作戦 ↗ ガ島撤退作戦

成功した作戦 事前に文書で配布

## 原田 熊雄(はらだ・くまお)

明治21(1888)～昭和21(1946)東京生まれ。貴族院議員。京大卒で近衛文麿や内大臣の木戸と親しく、大正15年元老西園寺公望の秘書となり政界情報を収集した。「西園寺公と政局」を記録

## 内田 信也(うちだ・のぶや)

明治13(1880)～昭和46(1971)茨城県生まれ。内田汽船を設立し第1次大戦で船成金に。代議士当選9回。岡田内閣鉄相、東条内閣農商相、戦後吉田内閣農相

▽宇垣がデング熱にかかり 12日に入院

退院(14日)の見通しがつき 13日に視察計画

▽文書送付の時間的余裕がないため

午後5時55分 戦略常用暗号(D暗号)で

5か所の前線基地に 打電した

▽中攻(一式陸上攻撃機)2機に 山本 宇垣が分乗

午前6時ラバウル発 バラレ島 ショートランド

ブインを回り ラバウルに午後3時40分帰着

▽1分刻みの詳細なもので 戦闘機6機が護衛に

▽長官視察とあって ソロモン海域に電波飛び交う

陸軍のバラレ守備隊は

陸軍暗号で ブインの第17軍司令部に

ショートランドの航空基地司令官は

航空暗号(F暗号)で レタカ島分遣隊に

▽ダッヂハーバー軍港(アリューシャン島)の

高さ70mの無線塔に キャッチされた

### ●山本機撃墜計画は「復讐作戦」と名付けられた

▽「厳しい決断を迫られた」とニミッツ(太平洋艦隊司令官)

撃墜出来れば 山本以上に有能な提督はない

計画的な迎撃が 暗号解読を知らせるに

▽ニミッツは このチャンスに賭けることを決意

ヘンダーソン飛行場(ガ島)の空軍司令官に

迎撃計画の作成を指示 日本側の疑惑に備え

「情報源は原住民工作員」と思われる工作も準備

▽ルーズベルト大統領も ノックス(憲議院)から

「山本暗殺計画」に承認を求められ 即座に許可

▽17日 ヘンダーソン飛行場に「撃墜命令」

▽ニミッツには「大統領はこの作戦を極めて重視し

あり。結果は直ちにワシントンに報告せよ」

さらに「情報部では、山本が特に時間を厳守し、いつも陣頭指揮をする。だから、恐らく時間通りに来るだろう。しかも、その一番機に乗っているだろうと強調しているから、その通りやれ」

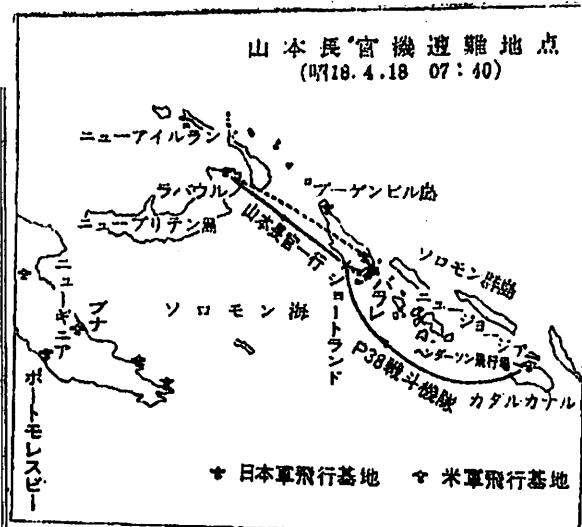
### ●作戦の成否は、山本機が時間通りに来るかどうかに

▽午前7時35分 ブイン(ゾーグビ島)西方で待ち伏せ

▽ガ島からは555\*。普通の戦闘機では攻撃圏外

陸軍の双発・双胴の戦闘機P38に 増槽タンク

▽それでも 行動半径ギリギリ



山本長官機遭難地点  
(昭和18年4月18日 07:40)

\* 日本軍飛行基地 ヤ 米軍飛行基地

### 「山本視察予定」の暗号電報

G F (聯合艦隊)長官、4-18、左記ニ依リ「バラレ」、「ショートランド」、「ブイン」ヲ実視セラル

(1) 0600 中攻(戦闘機6機ヲ附ス)ニテ「ラバウル」発、0800「バラレ」着。直ニ駆潜艇ニテ0840「ショートランド」着。0945 右駆潜艇ニテ「ショートランド」発、1030「バラレ」着。1100 中攻ニテ「バラレ」発、1110「ブイン」着。一根司令部(第一機動艦隊)ニテ昼食。1400 中攻ニテ「ブイン」発、1540「ラバウル」着

(2) (3) 略 (4) 天候不良ノ際ハ一日延期セラル

### どの暗号が盗まれたのか?

米海軍は昭和17年1月に豪州沖で沈没した伊号第124潜水艦からD暗号、F暗号書、使用規定を回収し、日本海軍の暗号解読に成功していた。

D暗号=5桁の数字の暗号帳と5桁の乱数表から成り、「い号作戦」前の4月1日から乱数表を改訂していた。2週間で解読が間に合ったかどうか。(ミッドウェー海戦の時も機動部隊出撃後に改訂、米軍は数週間、暗闇に逆戻りしたと云う。ただ必要情報は、その前に入手済みで万全の迎撃態勢をとることが出来た)

陸軍暗号=3桁の簡単なものだが、送信電波は1.3ワットの微弱電波で、乱

### ●小沢はミッドウェーの時から暗号漏洩に疑念

▽「どうも戦闘の推移がおかしい。作戦の全容が事前に敵側に洩れているぞ」軍令部に注意したが「暗号は解読されていない」との返事だった

▽ラバウルに着任してからも  
無線を使用した2回の作戦は 敵に迎撃され失敗したのに 使わなかった1回だけ成功

▽山本に 中止するよう進言し

首席参謀黒島亀人(くしま・かめひと)大佐にも

「君からも、宇垣参謀長にも云わせてみてくれ」

▽「ワンショット・ライター」と云われた一式陸攻  
「それなら護衛戦闘機を増やせ。俺の所の戦闘機も出す」山本が仰々しいことを嫌い 6機に

### ●運命の18日は朝から快晴

▽満59歳の誕生日(4日)を迎えたばかりの山本は

純白の第二種軍装ではなく

萌黄色の「陸戦隊服」と云われる 第三種軍装

▽「前線視察に目立たないように」との参謀の意見で

▽5時50分 ミッチャエル少佐の戦闘機隊発進

▽7時34分 ランファイア大尉機が発見

▽交錯する機銃弾を 横転して回避した時

目の前を 濃緑色の迷彩の山本機が横切った

▽20ミリ機銃が火を噴き 一式陸攻は燃えながら

滑空するように 密林の中へ突っ込んでいった

▽宇垣は「ジャングル中より黒煙の

天に冲するのを認むるのみ、噫万事休す!!!」

### ●山本遭難の第一報は夜7時8分、東京に

#### 「甲第一報」(18日午後2時30分発信)

連合艦隊司令部ノ搭乗セル陸攻二機、直掩戦闘機六機ハ本日〇七四〇頃「ブイン」上空付近ニ於テ敵戦闘機少数機ト遭遇空戦、一番機(長官、軍医長、樋端参謀、副官搭乗)ハ火ヲ吐キツツ「ブイン」西方一一浬密林中ニ浅キ角度ニテ突入、二番機(参謀長、主計長、気象長、通信参謀、室井参謀搭乗)ハ「モイガ」南方海上ニ不時着セリ、現在迄判明セル所ニヨレバ、参謀長、主計長ノミ救出セシメ目下搜索救助手配中

数表も一度使用したら同じものを使わないことになっていたので、傍受されても解読の恐れは少なかつた。

F 暗号=飛行機の交信に使うため簡便な方式になっていて、その分解読される危険は大きい。

#### ……日高義己上等飛行兵曹の述懐……

護衛戦闘機の日高は「戦闘機乗りには、この天気が曲者だ」と不吉な予感を覚えたと云う。「司令部ともあろうものが、ラバウルから東南方向へ飛ぶ午前中の飛行をなぜ選んだのか。午前中ずっと太陽に向かって飛ぶことになり、非常に不利で神経を使う。長官機の護衛飛行であれば、どうしてそう云う点を考えなかつたのか」

#### 「戦藻録」から

「天気晴朗、視界良好、上々の飛行日和なり。左右後方に戦闘機三機ずつ直衛す。機長紙片を手渡し来る。『〇七四五、バラレ着の予定』。腕時計を見れば正に〇七三〇にしてあと十五分と覚えたり」

#### 一番責任を感じていた宇垣

「山本長官は、私が殺したも同然だ。私がショートランドに行くなどと言ひ出さなければ何事も起らなかつたんだ」と云い続けていた。終戦の8月15日夕、第5航空艦隊長官宇垣は大分基地から11機を率い部下22名と沖縄沖の米艦隊に特攻攻撃をかけた。

最後の連合艦隊長官小沢は「軍の指揮系統は大命の代行であり私情を以て一兵たりとも動かしてはならぬ。終戦の大命が下されたのち部下を道連れにするなど以外の外、自決して部下のあとを追うと云うなら、一人でやれ」と激怒したと云う。

△渡辺安次参謀は水上機で現場に向かい 密林中に  
中央から機首の部分まで 黒焦げの機体を発見  
△「渡辺参りました。ハンカチを振って下さい」  
ボール玉に紙片を入れ15、6個投下 応答なし  
△地上捜索隊の到着は19日夕  
機体の周りに 黒焦げの死体が散乱していたが  
山本の遺体だけは 焼けておらず  
手袋も真っ白で 少しも汚れていなかった  
△左手で軍刀の柄を握り 右手を軽くこれに副え  
乗った時の姿勢で ちょっと横になった感じ  
△軍医の検死では 左肩甲骨中央部に銃弾  
左下顎から頭部に抜ける貫通銃創「機上即死」  
△高松宮は日記に  
「泰然タル長官ノ姿ヲ想見スルダニ難クナイ」

### ●山本には「特ニ元帥ニ列シ国葬ノ礼ヲ賜フ」

△国葬は 海軍記念日(5月27日)に始まり  
6月5日 東郷平八郎元帥と同じ日比谷公園で  
△遺骨が安置された 芝の水交社には  
記帳者約16万人弔問は20万人を超えた  
△棺は砲車に載せられ 海軍軍樂隊が「命を捨てて」  
芝～日比谷の2%の沿道は  
学生 生徒 一般市民で 埋め尽くされた  
△葬儀委員長には米内光政 国葬の模様は  
ラジオで全国 大東亜各地にも 中継放送された  
△午前10時50分 東条英機首相の礼拝に合わせ  
「一億の人々は敬虔な黙祷を捧げ、断乎米英撃滅  
に邁進すべき決意を固めた」と 新聞は報じた  
△軍需工場には「元帥の仇は増産で」のポスター  
「山本元帥の仇を討て」が 国民決意の合言葉に

### ●国葬さ中の5月30日「アツツ島玉碎」の発表

#### 「玉碎」

中国の史書「北斉書」が出典とされ、玉が碎ける  
ように潔く死ぬと云う意味。

△大本営は 初めて「玉碎」と云う言葉を使って  
守備隊2600人の全滅 敗北を認めた  
△戦局の悪化と共に 太平洋の島々で  
玉碎の悲劇が 次々と繰り返されていく

#### … 暗号漏洩を信じなかつた海軍 ……

ヘンダーソン飛行場に最初に戻つてきたP38は連続宙返りをやって、地上の将兵に「山本機撃墜」を知らせた。しかしサンフランシスコ放送は、19日午後3時「アメリカ陸軍戦闘機はブーゲンビル島上空に於て日本爆撃機二機、ゼロ戦六機と空戦を行い、爆撃機二機、ゼロ戦二機を撃墜した」と放送しただけで、それが山本機だということには一言も触れなかつた。

日本海軍も調査したが「わが企図の諜知は山本長官行動予定の電報を解読せねば不可能なり。しかもこの電報の解読は理論的には不可能であるはず。敵の放送や発表などを併せて考察すると、偶然に遭遇したと判断せられる事情が濃厚である」。これが結論で、海軍は敗戦まで、乱数表を改訂しただけでD暗号を使い続けた。

#### 東郷 平八郎(とうごう・へいぱちろう)

弘化4(1847)～昭和9(1934)鹿児島県生まれ。元帥、海軍大将。明治38年5月27日の日本海海戦で連合艦隊司令長官としてロシアのバルチック艦隊を破る

#### 東条 英機(とうじょう・ひき)

明治17(1884)～昭和23(1948)東京生まれ。陸軍大将。陸相を経て昭和16年10月首相。19年2月参謀総長を兼務したが戦局悪化で7月総辞職。戦後ピストル自殺を図ったが未遂。A級戦犯として刑死

#### 「山本戦死」発表に情報局の指示

- 一、国民の哀悼を敵愾心に導き之が昂揚に努めること。
- 二、新司令長官に対し国民をして絶対信頼せしむる様図ること。
- 三、山本大将の戦死に対しては長期に亘って取扱はないこと。

## ● 6、7月が花のきれいなアツ島(アリューシャン列島最西端)

▽昭和17年6月7日 無血占領して熱田島

キスカ島は 鳴神島と命名

▽写真家杉山吉良さんは 陸軍報道班員として従軍

ニュース映画・写真は 華々しい大本営発表の

「初のアメリカ本土占領」の証として 話題に

## ● 大本営の戦略判断の甘さが招いた「玉碎」

▽アツ島の防備強化に

北千島要塞部隊を送り込んだのは

ガ島戦が絶望的になった 17年10~11月

▽制空権・制海権を奪われた中での 孤島防衛が

いかに難しいか わかっていたはずなのに…

▽守備隊長の山崎保代大佐が

潜水艦輸送で 着任したのは

山本戦死の日 18年4月18日だった

### アリューシャン攻略作戦

日本本土初空襲(17年4月18日)にショックを受けた陸海軍は、本土防空強化のため、空の哨戒線をミッドウェー、アツ、キスカの線まで進めようと、ミッドウェー作戦と並行して行なわれた。

ミッドウェー攻略が失敗に終わった時点で、アリューシャンの戦略的価値はなくなったも同然だった。しかも夏は濃霧、冬は暴風雪に閉ざされる厳しい気象条件。撤退を考えて当然だったが、作戦目的に米ソ間の連絡遮断、日ソ有事の際のカムチャッカ攻撃の基地とする一欲張った狙いがあったため、そのまま占領を続けてしまった。

▽大本営も ガ島戦激化の時 撤収か固守か検討

引き続き 確保することに決定

▽北海守備隊(司令官・峯木十一郎少将)を編成

キスカに司令部を置き 兵力増強を図ることに

▽11月を過ぎると 悪天候 米軍機来襲

潜水艦輸送に頼らざるを得なくなり

アツ島兵力は 歩兵1個大隊半

山砲・工兵1個中隊 高射砲12門

飛行場設営隊など2500名 海軍100名

▽守備隊主力5700名は 北千島に足止め

## 杉山 吉良(すぎやま・きら)

明治43(1910)~昭和63(1988)静岡県生まれ。写真家。昭和17年6月、陸軍報道班員としてアツ上陸作戦に従軍。戦後、フリーの写真家としてヌード写真に新境地を開き、47年に「讃歌」を発表。代表作に「北限の花 アツ島再訪」(昭和54年)「Nude」(昭和58年)など

### 杉山さんの言葉

「残雪の山を背景に咲き揃う花の群落。どれほど、心をこめて手入れしたとして、こう見事な花園は、世界のどこでも見られないだろう。兵たちは、珍しい花を摘んでは、押花を作った。故郷の子供たちに送るんだと、武骨な兵士が、競って花を摘んだ。ボクはボクで、花を撮影した」。

杉山さん帰国後、一年も経たないうちにアツ島は玉碎の運命を迎え、杉山さんのアツ再訪の思いは生涯の宿題になった。昭和53年再び訪れ、翌年120種の花の写真集「北限の花 アツ島再訪」を出版した。

「島と戦争と人間のかかわり、その一面で、バンザイと叫んで死んでいった、あの花の美しさも知らずに死んで逝った兵士たちとのつながり、三十六年間、アツに行って再び花を写し、いまの日本人たちに見ていただきたいとひたすら願いつづけてきたボクの生涯をかけての旅は、まぎれもなく『戦争から切れない人間の旅』だった」

## 山崎 保代(やまさき・やすよ)

明治24(1891)~昭和18(1943)陸士25期で当時陸軍次官の富永恭次と同期生。陸軍大佐の時アツ島守備隊長となり着任後41日で玉碎。中将に2階級特進

●5月12日、米軍1万1千がアツ島に上陸

▽戦艦など29隻が猛烈な艦砲射撃

空からは「帝国ホテル並みの待遇をする」と  
献立表まで書いた投降勧告文をバラ撒いた

▽日本軍は塹壕と堅い岩盤を利用よく戦った

▽2、3日で落とす積もりが

アラスカから1個連隊の増援が必要になり

第7歩兵師団長は責任を問われ解任

●大本営御前会議は20日「アツ救援見送り、キスカ撤退」の方針を決定

▽敵背後の逆上陸 落下傘部隊使用

駆逐艦を擋座させる積もりで突入させる

結局増援兵力を送っても「奪回不可能」と判断

▽山崎大佐は29日夜悲壮な訣別電報

北方軍司令部宛て電報

「野戦病院二収容中ノ傷病者、其ノ場ニ於テ  
軽傷者ハ身自ラヲ処理セシメ、重傷者ハ軍医  
ヲシテ処理セシム。非戦闘員タル軍属ハヨク  
各自兵器ヲ執り、陸海員トモ一隊ヲ編成、攻撃  
隊ノ後方ヲ前進セシメ、共ニ生キテ俘虜ノ恥  
カシメヲ受ケザル様覚悟セシメタリ。攻撃前  
進後、無線電信機ヲ破壊、暗号書ヲ焼却ス」

▽山崎は右手に軍刀左手に日の丸の旗を握り

150名の突撃の先頭に立ち戦死した

▽米軍の損害は

戦死342 負傷1135 行方不明58

▽日本軍では27名が捕虜になり

シートルに送られたが米軍は全員礼服

勲章をつけて出迎え勇戦奮闘に敬意を表した

瀬島龍三さん(当時本部課)の話

昭和天皇は、報告のため参内した杉山元(すぎや  
ま・はじめ)参謀総長に「将兵は最後までよくやつ  
た。このことを伝えよ」と云われた。杉山が「守  
備隊は既に無線機を破壊しておりますので陛下  
のお言葉をお伝えすることが出来ません」と  
答えると、「それでもよいから電波を出して  
やれ」と強く命じられたと云う。

…「高松宮日記」(4月18日)…

「四月十一日以来敵機ノ来襲急激ニ  
熾烈トナリ、十七日迄七日間ノ来襲  
六十一回、三九四機二達ス。従ッテ弾  
薬ノ消耗夥シク、節約スルモ自ラ限  
度アリ。…

僅カ三隻ノ潜水艦ヲ以テ鳴神、熱田  
両地ノ輸送ヲ行フ如キ弥縫策ハ遂ヒ  
ニ弾量欠乏ノ憂フベキ事態ニ直面ス  
ルコトナルベシ。隊員一同、連日日  
出ヨリ日没迄、間断ナク来襲スル敵  
機ト交戦シ、飛行場建設強化、被害ノ  
修復等ニ夜ヲ徹シ涙グマシキ奮闘ヲ  
続ケアリ。速ニ弾薬糧食ノ輸送ヲ強  
化促進セラレンコトヲ切望ス。…

益々飛行機ノ数ヲ加ヘ攻撃シ来ル  
ハ奪回作戦ノ企図ナルハ明白ナリ。  
五月ノ霧輸送ニハ出来ルダケ準備ヲ  
ススメツツアルモ、猶一ヶ月余アリ  
テ其ノ間策ナキ有様ナリ」

大本営発表(5月30午後5時)

一、アツ島守備部隊は五月一二日  
以来きわめて困難なる状況下に寡兵  
よく優勢なる敵に対し血戦継続中の  
ところ五月二九日夜敵主力部隊に対  
し最後の鉄槌を下し皇軍の神髄を發  
揮せんと決意し全力を挙げて壮烈な  
る攻撃を敢行せり、爾後通信全く途  
絶全員玉碎せるものと認む。傷病者  
にして攻撃に参加せざる者は之に先  
だちことごとく自決せり、我が守備  
隊は二千数百名にして部隊長は陸軍  
大佐山崎保代なり、敵は特殊優秀装  
備の約二万にして五月二八日迄に与  
えたる損害六、〇〇〇を下らず。

二、キスカ島は之を確保しあり。

## ●「太平洋戦争最大の奇跡」と云われたキスカ撤退

△キスカには 峯木少将の北海守備隊 2600名

　海軍第1根拠地隊 3400名 計6千名

△島の周りは レーダー装備の米艦隊で固められ

　アツアムチトカ島から 厳重な監視飛行

△潜水艦 17隻で撤収作戦 運べるのは1隻百名

　6月22日までに 12回

　傷病者や軍属 821名を収容 潜水艦 3隻失う

△7月の濃霧期に 第5艦隊の快速艦艇で決行に

△第3水雷戦隊司令官木村昌福(きむら・まさとみ)少将

　軽巡阿武隈など 15隻が 島出港

△11日突入の予定だったが 霧が晴れてしまい

　15日まで待っても 発生しない

　木村は「帰れば、また来ることも出来るから」

△海岸待機の将兵の失望は大きく 発狂者も

△「髭の木村」卑怯者呼ばわりする声も

△木村の 徒に猪突猛進しなかった

　冷静な状況判断 決断が 成功に導くことに

△待望の濃霧 「北太平洋に1週間以上」の予報で

　22日再び出撃 霧に紛れ 29日午後2時突入

△全員 5193名収容に わずか 55分

　所持品は一切放棄 小銃も海中に投棄

　午後3時 26ノットの高速で出航 31日帰着

## ●「アツアムチトカ島」「アツアムチトカ島」とか「アツアムチトカ島に続け」

△日本が亡国の道へ進むのを 阻止するため

　何か行動を起こさなければと 考える人たち

## 「山本をもう少し生かしておきたかった」

　山本の長男義正さん(当時成蹊高校生)は、国葬が終わり、壇に付き添わされて宮内省に挨拶に行った時、宮内大臣松平恒雄と壇の会話を今でも鮮明に覚えていると云っている。

「山本が戦死し、全国民から愛惜を受けている。しかし、山本の戦死が本当は何を意味するのか。私たちが山本をもう少し生かしておきたかった本当の理由を理解して、山本の死を悼んでいる国民はほとんどいないであろう」。もう少し生かしておきたかったのは、アメリカとの講和の問題ではなかったか、と義正さんは感じたと云う。

## 「高松宮日記」(5月30日)

「熱田島ニツイテモ総長(軍令部総長・永野修身)ハ、確保スルニ十分ナリト申上ゲテアツアムチトカ島様ナリ。出来ヌモノナラ、ソノ程度ノコトヲ申上ゲテアレバヨイノニ、徒ラニ大丈夫トカ申シ上ゲル癖アリ、ホントノ事ヲ云ッテ呉レネバコマルトノオ話モアツタ」

## 永野 修身(ながの・おとみ)

明治13(1880)～昭和22(1947)高知県生まれ。海軍大将、元帥。海相を経て昭和16年軍令部総長となり、主戦論を主張。A級戦犯で起訴され、裁判中に病死

## 幸運も重なった

26日、キスカ島を包囲していた米艦隊のレーダーが、アムチトカ島(アムチトカ島)の山の反射を日本艦隊と誤認して、約600発という猛烈な艦砲射撃をした。弾薬、燃料の補給が必要になり島の囲みを解いたので、日本艦隊はそのスキに滑り込むことが出来た。

米艦隊が再び厳重な包囲態勢をとったのは、日本軍が全て引き揚げを終わった29日夕方。翌日から連日、無人の日本軍陣地に砲撃を続けた後、8月16日に3万5千の大部隊が上陸作戦を開始したが、日本軍が残していくつた2匹の犬を発見しただけだった。

## 松平 恒雄(まつだいら・つねお)

明治10(1877)～昭和24(1949)東京生まれ。外交官、政治家。幕末の会津藩主・松平容保(ゆめもり)の四男。大正9年外務省歐米局長となり13年駐米大使、昭和4年駐英大使を歴任。ロンドン軍縮会議首席全権。11年から20年まで宮内大臣。戦後22年に参議院議員、議長

東洋経済新報社長で、戦後首相になる石橋湛山も知人に、「惜しい人だったねえ、山本さんは」と云っている。「会ったことはなかったが、あの人に戦後の時局收拾をして貰ってはどうかと思っていたんだ。つまり、あれだけの大戦果を挙げた山本さんが時局收拾に当たれば、たとい国民の間に不平不満の声があっても、「これは山本大将のやられることだから」というので、併せて貰うことが出来るのではないか、そういう考えだった。山本さんは戦前英米派などと云われた人だけに、戦後の世論をおさめて行くというような時には、かえってよかったですではないかと思ったんだが」としみじみした口調で語ったと云う。

その役割を期待出来る人は、山本しかいないことを、石橋や松平、堀は知っていた。

### ●山本が今なお私たちを魅了するのは、なぜか？

#### ▽日独伊三国同盟締結(昭和15年9月27日)後

旗艦長門から上京してきた山本は 原田熊雄に「実に言語道断だ」と 憤慨をぶちまけた

#### 山本の言葉

「自分の考えでは、アメリカと戦争をするということは、ほとんど全世界を相手にするつもりにならなければ駄目だ。結局、自分はもうこうなった以上、最善を尽くして奮闘する。そして長門の艦上で討ち死にするだろう。その間に、東京あたりは三度ぐらい丸焼けにされて、非常にみじめな目に遭うだろう。そして結果において近衛(逝)だのなんかが、気の毒だけれども、國民から八つ裂きにされるようになりますやあせんか。実際に困ったことだけれども、もうこうなった以上は已むを得ない」。

#### ▽三国同盟という選択 ナチス・ドイツとの握手が

日米戦争 敗戦につながることを予測

#### ▽山本ほど「日米戦うべからず」を

海軍首脳部に訴え続けた人はいなかった

#### ▽まさに 事志と違い 開戦を迎えた悲劇的な宿命

#### ▽スケールの大きな発想 独創性を持つ人

### 石橋 湛山(いしばし・たんざん)

明治17(1884)～昭和48(1973) 東京生まれ。ジャーナリスト、政治家。身延山久遠寺法主杉田湛齋(たんさい)の子で母方の姓を継ぐ。明治44年東洋経済新報入社、自由主義の立場から社説で軍国主義を鋭く批判、昭和16年社長。戦後吉田内閣蔵相、鳩山内閣通産相を歴任。31年保守合同後、初の自民党総裁選挙で岸信介を破り首相に就任したが、病気のため2か月で辞任。以後日中、日ソ交流に尽力し、34年の訪中で石橋・周恩来声明を発表、国交回復の土台を作る

### 近衛 文麿(このえ・ふみまろ)

明治24(1891)～昭和20(1945) 東京生まれ。公爵。貴族院議長を経て、昭和12年6月首相。直後に勃発した支那事変で「国民政府ヲ対手トセズ」と声明を出し、戦争の早期收拾に失敗。14年1月辞職し枢密院議長。15年7月第2次内閣を組織、日独伊三国同盟を締結。南部仏印進駐で対米関係を悪化させ、16年7月松岡洋右外相を更迭して第3次内閣を組閣。しかし日米交渉妥結の展望を失い10月総辞職。敗戦後戦犯に指名され服毒自殺

#### 堀に宛てた山本の手紙

「大勢はすでに最悪の場合に陥りたりと認む、個人としての意見とは正確に正反対の決意を固め、その方向に一途邁進の外なき現在の立場は、誠に変なもの也、これも天命というべきか」(昭和16年10月11日)

#### とにかく逸話の多い人だった

酒はほとんど飲めないので、新橋によく出かけた。番茶をお銚子に入れさせ、それを盃に注いでチビリチビリ飲んでいた。「何か芸をやって」と云われると、パッと逆立ちし、座敷

- △いち早く「航空機の時代」を見抜いた 先見性  
世界各国に先駆けて「航空艦隊」の構想
- 真珠湾攻撃をした 空母6隻の第1航空艦隊
- △連合艦隊司令長官として  
常に 積極的に戦い続けた 武人としての潔さ
- △米内が 山本を評して「茶目ですな」堀は  
「一言で云うならチャイルディッシュな男です」  
いつまでも 青年士官時代の若々しさを  
残した純情さ 豊かな人間性

### ●山本の魅力は、立ち所に下した明快な決断

海兵校長の井上は生徒にこう話した

「物事の判断は快刀乱麻を断つが如く、常に先の見えることは、余人の追随を許さぬところで  
あった。誘惑に乗らず、風潮に惑わず、世評は問題にせず、思うところを判然と言明し、所信に邁進した」。山本がそれが出来たのは、「自分の答えを持っているため、他人の出した答えに引きずられなかった」と説明し、「私心がないから、正常な判断が出来たのだ」と指摘した。

### ●山本を育てた「朝敵長岡藩」の逆賊の環境

- △長岡藩は 戊辰戦争で最後まで官軍に勇敢に抵抗  
山本の祖父は 77歳で敵陣に斬り込み戦死  
父高野貞吉(さだよし)も 戦傷を負っている
- △大正5年 海軍少佐の時 高野姓から山本姓に  
△養祖父 山本帶刀(たてわき)は 代々家老職  
長岡藩総督の河井繼之助(かわい・つぐのすけ)が  
重傷を負い 23歳の帶刀が総司令官に
- △官軍に捕えられても 降伏を承知せず 斬られた  
維新で お家断絶になったのが  
許されて家名再興 山本が望まれて相続人に  
△山本を 海軍の軍人として
- 非常に信頼していた 最後の元老西園寺公望は  
当時19歳 北国鎮撫使として 官軍の総大將  
長州閥の総帥 山県有朋も 長岡攻めの參謀
- △郷里の親友に「旧長岡藩から、日本の連合艦隊司令長官が出たことを、君は胸においてくれるだろうね」常に長岡藩の意識 成長のバネに

の対角線をダーツと歩いて見せた。  
大変な遊び好きで、麻雀、トランプ、花札と、何でもござれ。負けず嫌いと  
気迫、持ち前のカンの良さで、とにかく強かったと云う。大正12年、井出謙治大将のお供で大戦後の欧州を視察した時、博打の本場モナコでルーレットをやり大勝ちした。井出に「私を二年間、欧州各地に遊ばせておけば、戦艦一隻くらい建造する費用は簡単です」。本人もよく「海軍をやめたら、モナコに来て博打場でもやって呑気に暮らすか」と云っていた。

日露戦争で巡洋艦日進乗り組み中、砲塔の爆発事故で左手の中指と人差し指を失った。タクシーに乗って、左手を握り「おい、これでやってくれ」。1円が基本料金の円タクで、片手は50銭の意味だが、目的地に着くと30銭しか払わない。運転手の文句に「ほら見ろ」と、3本指の左手を見せる。新橋では「80銭」で通っていた。芸者の指のマニキュアは1本10銭で、山本なら80銭ですむというわけだ。

芸者梅龍との仲は友人の間では「公然の秘密」だった。昭和29年4月、週刊朝日が「提督の恋」として特種で報じた時、朝日に投書が殺到した。阿川さんによると、戦争中海軍に取られて、肉親に葉書一枚出すにもきつい制限があったのに、愛人にせつせと手紙を書いて、いい気なものだ。こんな非難もあったが、山本にこういう人がいたのをよしとして、喜ぶ投書は比較的年配の読者に多かったと云う。

### 戊辰戦争

慶應4年1月3日、戊辰の年に始まり、維新政府軍と旧幕府側との間に16か月余にわたって戦われた内戦。

▽戊辰戦争で敗れた 南部藩出身の原敬が

「白河以北一山百文」と嘲られた屈辱を忘れず俳句の号を「一山」と名乗ったのと 同じ心情

▽雪国出身の山本が 海軍を志し 型にはまらずに終始 のびのびとした発想を持っていたのは この「敗戦の藩」の 屈辱感から

## ●山本の目を大きく世界に向かたアメリカ駐在

▽大正8年5月 約2年間 バーバード大学に学ぶ

▽米国国内を よく旅行 自分の目で見て歩いて

「デトロイトの自動車工場とテキサスの油田を見れば、米国との近代戦争に勝てるわけがない」

### 山本の考え方

「大和魂あらばアメリカ恐るるに足らず」の論が盛んになった時、「米国には科学的基礎に立つアメリカ魂がある。大和魂はむしろ暴虎馴河の嫌いがある」。さらに日米工業力の差に触れ、「戦争の不幸は絶対に避けなければいけない」。

昭和2年、駐米武官補佐官になった伊藤整一(いとう・せいいち=艦載大和の沖縄特攻作戦の時、司令館として駆逐)に、駐在武官の山本が真っ先に云ったのは、「出来るだけアメリカの隅々まで旅行しろ」だった。

旅行が何より為になる勉強であり研究だ。英語の本を読むことも勉強だが、それは日本にいても出来る。駐在中は、この国にいる時でなければよそでは出来ないことに力を注ぐべきで、その中でも旅行が一番重要だと云うのだ。

## ●米内はなぜ、山本を海軍大臣にしなかったのか？

▽昭和14年8月 吉田善吾と交代

吉田は 三国同盟に反対だったが

山本のような 信念を押し通す強さがなかった

▽三国同盟交渉が始まると

過度の疲労と心労から入院 1年ほどで辞職

▽山本は「吉田の下で次官に留まつてもいい」

降格人事も覚悟で申し出たが 米内は

山本を 連合艦隊司令長官に転出させた

▽米内は「山本を無理に持ってくると、

殺される恐れがあるんでねえ」

## 西園寺 公望(さいおんじ・きみもち)

嘉永2(1849)～昭和15(1940) 京都生まれ。公爵。慶応3年新政府参与になり、戊辰戦争に従軍。明治4年フランスに留学し13年帰国。文相、枢密院議長を経て36年政友会総裁。39年、44年の2度首相。最後の元老として後継首相奏請を行なう

## 山県 有朋(やまがた・ありとも)

天保9(1838)～大正11(1922) 長州出身。公爵。陸軍大将、元帥。2度首相となり元老として明治・大正の政界に君臨、また陸軍の大御所として権勢を揮った

## 原 敬(はら・たかし)

安政3(1856)～大正10(1921) 盛岡出身。大正2年政友会の第3代総裁。7年9月に、米騒動で倒れた寺内内閣に代わって首相。「平民宰相」と云われ、わが国最初の本格的政党内閣を組織したが、東京駅で暗殺された

## 海兵32期は4人の海軍大将

山本のほか、海相になった吉田善吾と嶋田繁太郎、それに塩沢幸一。クラス・ヘッドは堀悌吉で、山本は12番。山本が「心の友」として心の内を打ち明け、助言を求めたのは堀だった。海兵在学中、長岡の兄に「我一人の友を得たり」と書き送っている。

昭和9年に堀が「軍縮賛成派」として海軍を追われた時、ロンドンの軍縮交渉に出張中の山本は、「巡洋艦隊の一隻と一人の堀悌吉とどっちが大切なんだ」と怒ったと云う。堀に宛てて「海軍の前途は真に寒心の至りなり。かくの如き人事が行わるる今日の海軍に対し、これが救済のため努力するも到底むつかしいと思わる。海軍自体の慢心に陥るるの悲境にいったん陥りたる後、立て直すの外なきに

- 山本戦死に、一番驚き悲しんだのは高松宮だった
- ▽「甲第一報」を知らずに帰宅 翌朝 出勤早々  
その電報を見て 日記に「ボンヤリトナル」
- ▽山本に対する信頼 日記の随所に

「高松宮日記」(5月22日)

「昨日山本連合艦隊司令長官戦死発表アリ。今朝ノ新聞ニ大々的二出ル。…車中デ見タ新聞、置キ捨ニシ難イ氣持チニテカバンニ入レタ。…海軍トシテハ大損失ト云ヘヨウ。又世ノ人ニトツテモ何トナク惜ム心ヲ人カラ人ヘ伝ヘテ、附ケ刃ナラヌ心ノイタミヲ知ルト知ラヌトニ隔テナキ憂ヒトナルデアラウ。ナキ人ノ人徳ナリ」

あらざるやを思わしむ」。

友情溢れる手紙を出しているが、一度は海軍を辞めようかと落ち込んだ山本を、「貴様の存在が今の海軍の歯止めになっているんだ。絶対に辞めてはいかん」と止めたのは堀だった。

吉田 善吾(よしだ・ぜんご)

明治18(1885)～昭和41(1966)佐賀県生まれ。海軍大将。軍務局長を経て昭和12年連合艦隊司令長官。14年8月海相となるが1年で辞職。直後に三国同盟締結

鳴田 繁太郎(しまだ・しげたろう)

明治16(1883)～昭和51(1976)東京生まれ。海軍大将。昭和16年10月東条内閣海相。19年2月軍令部総長を兼務したが、東条追従の姿勢が海軍部内の反発を受け7月辞任した。戦後A級戦犯で終身禁固刑の判決を受けるが30年釈放

… 時局認識不十分 …

高木惣吉少将の話だと、鳴田は昭和18年7月初め、北陸や舞鶴の軍需工場視察に出かけた。大臣巡視とあって、どこも下にもおかないご馳走攻め、ご機嫌とり。随行した高木は「何をとばけて田舎回りなどをしている時機か。吐き気の催すことばかりだった」と憤慨している。

「高松宮日記」にも「海軍部内ノ時局認識ハ不十分ナリ。世間ニケシカラヌト云ッテ、ソノロノ下カラ閣デ豊富ナ料理屋ノ食ヒニ行ク。ソレモ役所ノ人ガ。…現役兵不足ト云フモ從兵ヲ多ク使ヒ洋食ヲ食ッテ、兵ノ手数ヲ減サウトモセヌ。ツマラヌ駅ニ番兵ヲ立テタリスル」(18年8月9日)

- ▽昭和11年暮れ 高松宮が軍令部参謀に  
海軍省副官が正面玄関で一同お迎えの手配
- ▽余り 部下を叱ったことのない山本が  
「おい、宮様は宮様として着任されるのか、海軍少佐として着任されるのか、どっちなんだ？ 少佐なら少佐らしく着任して貰つたらいいだろ？」
- ▽山本は 高松宮着任後  
親王殿下に対する礼をとり挨拶に出向いた

- 山本以外の海軍首脳部を信用していなかった
- ▽永野軍令部総長については  
「總長話スガチットモ要領ヲ得ズ。全ク役ニ立タタン總長ナリ」(「離宮日記」18年9月6日)
- ▽東条首相べったり 「東条の副官」と酷評された  
海軍大臣の鳴田繁太郎も嫌いだった
- ▽それだけに 山本戦死のショックは大きかった

●「この戦争を早く終わらせねば」の思いが…

- ▽実によく情報を集めている 高松宮  
早くもB29に注目(「離宮日記」から)
  - (18年5月5日)「獨国情報 三月中ノ空襲ニヨル独本国内都市ノ人ノ被害ハ、死者二五〇〇名、傷者六〇〇〇名ナリ。日本デハ今考ヘラレヌ多数ナリ。注意ヲ要スルコトナリ」
  - (5月31日)「總長官邸デ中島知久平ノ話 必勝不敗ノ態勢ト云フモ、明年米ハB-29(ボイング機、艤〇4発撃機)ガ生産サレ、明後二十年ニハ日本攻撃用大

攻(大型上陸機)ガ多量生産サレルデアラウ。斯クテ  
旧式ナ戦術思想ノ不敗ノ態勢ハ根底ヨリ覆サレ  
テオルコトニ氣ガツク」

▽高松宮は5月14日 木戸内大臣を訪ねている

「木戸奉一日記」から

(5月14日)「高松宮御来室、御尋ねに従ひ内閣改造の経緯、世界戦争の見透し等につき言上、御説を承る。尚、万一平和工作を必要となりたる場合、軍部の要求と平和条件との調節は至難事中の至難事なれば、如斯場合には充分なる御奮發を願はざるべからざる旨を言上す」

▽「高松宮日記」には 簡単に

学士院で食事会があり その後「内大臣ニ聴ク」

▽「木戸日記」からは かなり突っ込んだ話し合い

▽代議士中野正剛は 元日付朝日新聞に

「戦時宰相論」を書いて 東条体制を批判

▽東条首相は 4月20日に内閣改造

批判勢力を抑えるため 外相に重光葵を起用

独裁体制強化に 乗り出していた

中島 知久平(なかじま・ちくへい)

明治17(1884)～昭和24(1949)群馬県生まれ。実業家、政治家。海軍技術将校として飛行機製作にあたり、大正6年退官後、中島飛行機会社を創設、一大軍需会社となる。昭和5年衆議院議員となり当選5回。第1次近衛内閣鉄道相、東久邇内閣軍需相・商工相

中野 正剛(なかの・せうごう)

明治19(1886)～昭和18(1943)福岡県生まれ。政治家。東京朝日記者を経て大正9年衆議院議員(当選9回)。昭和10年東方会を結成し、南進論、日独伊三国同盟締結を提唱。戦時中、東条内閣打倒の重臣工作を画策して、18年10月逮捕され、釈放直後に割腹自決した

重光 葵(しげみつ・まる)

明治20(1887)～昭和32(1957)大分県生まれ。外交官、政治家。昭和7年中国公使の時、上海爆弾事件で右足を失う。駐ソ・駐英大使を経て18年東条内閣外相。戦後、東久邇内閣外相として降伏文書に調印。A級戦犯で禁固7年。27年改進党総裁となり鳩山内閣副総理、外相

（原刊於《明報》，2002年1月26日）  
誰說讀書（詩的）終歸無用？（總括）其實  
生活就是讀書。我們要了解歷史，便要  
研究古文；我們要了解文學，便要研究詩  
歌；我們要了解哲學，便要研究哲學；我們  
要了解人生，便要研究人生哲理。這些都是  
我們人生的一部份，我們不能不讀。

卷之三十一

《文淵閣圖書館》卷之三  
藏書記載(續) 一  
藏書記載(續) 二

卷之三

本連接段之三由張家界  
至韶關段之三由韶關

（中略）

性，如图 1 所示。图中显示了在不同条件下生长的植株。

這就是說，我們在這裡所看到的，就是一個完全沒有道德感的社會。

政治家所用ひを以て、既に諸侯の  
間で兵事謀議が繰り返され、其勢甚だ強  
大なる出で難い情勢に陥る。

「山本五十六戦死とアツ島玉碎」関係年表

37	1904	2. 10 露に宣戦布告。日露戦争始まる	昭18	1943	4. 17 ガ島米軍基地に「山本機撃墜命令」
38	1905	5. 27 日本海海戦。バルチック艦隊を破る			4. 18 山本、ブーゲンビル島上空で戦死
39	1914	7. 28 第一次世界大戦始まる			5:50 P 38 戦闘機隊、ガ島基地発進
40	1918	11. 11 ドイツ降伏。第一次大戦終わる			6:00 山本、宇垣纏参謀長搭乗の一式
41	1922	2. 6 ワシントン会議で海軍軍縮条約調印			陸攻2機、ラバウル基地発進
42	1930	4. 22 ロンドン海軍軍縮条約調印			7:34 P 38、山本機を発見し攻撃
43	1931	9. 18 柳条湖で満鉄爆破。満州事変始まる			7:45 山本機、黒煙を吐き密林に突入
44	1934	12. 15 堀悌吉中将、予備役編入			14:30 山本遭難の「甲第一報」打電
45	1936	12. 1 山本五十六、海軍次官就任			17:08 東京通信隊受信(20分翻訳完了)
46	1937	12. 2 米内光政、林内閣海軍大臣に			◆アツ守備隊長山崎保代大佐上陸
		7. 7 蘆溝橋事件勃発。支那事変始まる			4. 19 夕刻、地上搜索隊が山本の遺体発見
		12. 9 南昌爆撃の樺村寛一機、左翼の半分			4. 20 東条内閣改造。外相に重光葵
		を失いながら片肺飛行で上海帰還			4. 21 連合艦隊司令長官に古賀峯一
47	1939	5. 11 ノモンハン事件始まる			5. 12 米軍1万1千人、アツ島に上陸
		8. 30 阿部内閣海軍大臣に吉田善吾 ◆山本			5. 14 高松宮、内大臣木戸幸一を訪ね懇談
		は連合艦隊司令長官に転出			5. 20 大本営御前会議、アツ救援見送り・
		9. 1 第二次世界大戦始まる			キスカ島撤収の方針を決定
48	1940	7. 24 海軍、零式戦闘機(ゼロ戦)制式採用			5. 21 山本戦死の大本営発表。「元帥ニ列シ
		9. 25 米、日本の外交暗号を解読			国葬ノ礼ヲ賜フ」
		9. 27 日独伊三国同盟、ベルリンで調印			5. 27 山本の国葬始まる ◆潜水艦によるキ
49	1941	4. 10 空母機動部隊の第一航空艦隊編成			スカ島撤収作戦開始
		4. 13 日ソ中立条約、モスクワで調印			5. 29 アツ守備隊2600人玉碎(30日 発表)
		6. 22 独軍、ソ連に侵攻。独ソ戦始まる			6. 5 日比谷公園で山本の国葬
		7. 28 日本軍、南部仏印に進駐開始			7. 7 キスカ島撤収作戦の第三水雷戦隊、幌
		8. 1 米、対日石油輸出を全面禁止			筵出航(霧発生せず 15日断念)
		8. 25 新鋭高速空母翔鶴竣工(9月25日 瑞鶴)			7. 22 第三水雷戦隊、キスカへ再度出撃
		10. 18 東条英機内閣発足			7. 29 キスカ島の5193人、全員撤収に成功
		11. 26 米「ハル・ノート」を手交			8. 16 米軍3万5千人、無人のキスカ島上陸
		12. 1 御前会議、「対米英蘭開戦」を決定			9. 8 イタリア、連合軍に無条件降伏
		12. 8 太平洋戦争始まる。真珠湾攻撃			10. 26 憲兵隊で取り調べ中の中野正剛、勾
		12. 10 マレー沖海戦で英戦艦2隻撃沈			留を解かれ帰宅。深夜割腹自殺
		12. 16 戦艦大和(69, 100t)竣工			11. 24 マキン島守備隊玉碎(25日 タラワ島)
50	1942	1. 20 伊号第124潜水艦、豪沖合で撃沈され	19	1944	3. 31 古賀連合艦隊司令長官、飛行艇でパ
		米軍は日本海軍の暗号書回収			ラオからダバオへ向かう途中殉職
		4. 18 ドゥリットル爆撃隊、東京など空襲			6. 15 米軍、サイパン島に上陸開始
		6. 5 ミッドウェー海戦。赤城、加賀、飛龍、			6. 16 中国基地発進のB 29、北九州初空襲
		蒼龍の4空母沈没。山口多聞戦死			7. 7 サイパンの日本軍守備隊玉碎
		6. 7 アツ、キスカ島に上陸(8日 占領)			7. 18 東条内閣総辞職
		8. 7 米軍、ガダルカナルに上陸			7. 22 小磯国昭・米内光政連立内閣成立
		10. 30 アツ防備に北千島要塞部隊派遣			8. 3 テニアン島の日本軍守備隊玉碎
		11. 12 アツ強化の第二陣上陸			8. 11 グアム島の日本守備隊玉碎
		11. 27 国民決意の標語「欲しがりません 勝			11. 23 ペリリュー島日本軍守備隊玉碎
		つまでは」など入選作10点発表			11. 24 マリアナ基地のB 29、東京初空襲
		12. 3 映画「ハワイ・マレー沖海戦」上映			3. 10 298機のB 29、東京大空襲。江東全滅
		12. 31 御前会議でガ島撤退を決定			3. 17 硫黄島の日本軍守備隊全滅
51	1943	1. 1 朝日新聞に中野正剛の「戦時宰相論」			4. 1 米軍、沖縄本島に上陸
		2. 1 ガ島撤退作戦始まる(7日 完了)			4. 7 鈴木貫太郎内閣成立。米内海相留任◆
		2. 9 大本営「ガダルカナル転進」と発表			戦艦大和、沖縄特攻作戦で沈没
		4. 3 山本「い号作戦」指揮でラバウル進出			4. 30 ヒットラー、地下壕で自殺
		4. 7 「い号作戦」始まる。ガ島の艦船攻撃			5. 7 ドイツ、連合軍に無条件降伏
		4. 11 アツ空襲激化(17日まで 394機)			5. 29 最後の連合艦隊長官に小沢治三郎
		4. 13 山本のソロモン諸島視察予定を前線			8. 15 敗戦。玉音放送◆宇垣纏第五航空艦隊
		基地に「D暗号」で打電◆米軍、ダッチ			長官ら11機、沖縄沖の米艦隊に突入
		ハーバー軍港の無線塔がキャッチ			12. 16 近衛文麿元首相、青酸カリ自殺